

# 第1学年社会科（地理的分野）学習指導案

令和 2年 1月 17日(金)

第4校時 1学年 5名

指導者 教諭 小谷 勇人 印

1. 単元名 第2章 世界から見た日本の姿 1節 世界から見た日本の自然環境

2. 単元について

(1) 教材観

本単元は、次期学習指導要領において以下のように位置づけられている。

C 日本の様々な地域 (2) 日本の地域的特色と地域区分

①自然環境 ②人口 ③資源・エネルギーと産業 ④交通・通信

ア 次のような知識及び技能を身に付けること

(ア) 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること。

(中略)

(オ) ①～④までの項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解すること。

(カ) 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること

(ア) ①から④までの項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 日本の地域的特色を、①～④までの項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

本単元は我が国の国土の特色を理解させることを大きなねらいとしている。現行学習指導要領では「世界と比べた日本の地域的特色」という項目で、世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観させることをねらいとしている学習内容である。次期学習指導要領では「日本の様々な地域」という項目で取扱うことになり、「世界と比べた」という視点が薄くなっている。地域の特色は、他地域と比較したり関連付けたりすることによって、より一層明らかになると考え、引き続き我が国の国土の特色と他国の国土の特色を比較・関連付ける視点を適切かつ多面的・多角的に取り扱うようにする。このような展開は、生徒が社会的な見方・考え方を働かせることにつながり、深い学びの実現につながっていくと考えている。

そこで、本単元は本校が位置する中国の国土の特色と我が国の国土の特色を比較・関連する内容を適宜取り入れたい。その上で我が国の国土の特色の理解が、本単元のねらいであることから、特に我が国の国土を大きく特徴づけるものを取り扱う。

## (2) 生徒の実態

本学級は、男子2名、女子3名からなる少人数のクラスである。落ち着いた授業態度で、積極的に発表し、意見を伝え合うことができるなど、意欲をもって学習に取り組むことができている。小学部までの経験から発表することに抵抗がなく、自分の意見を素直に表現できる生徒が多い。また、日本と中国の多文化の中で生活している生徒が2名在籍している。本単元は現在生徒が住んでいる中国の国土の特色についても触れ、多文化家庭の生徒に中国の国土に関する問いかけをするなど、国土に関心を高めて意欲的に学習に臨ませたい。

本単元のねらいである日本の国土の特色の学習については日本に住んだ経験がない生徒もいる一方、日本に住んでいた経験をもつ生徒もいる。生徒が知っている情報や小学校での学びを取り上げた上で、日本の国土と中国の国土との共通点・相違点に気付かせることで理解させたい。

次に課題として、本学級の生徒たちは既習事項ではない学習を理解するまでに時間がかかる面がある。そこで定着を図るために、実際の地形の写真や動画などを活用して視覚化したり、単元全体において小学部5年生における既習事項を想起させたりしながら授業のねらいに迫りたいと考える。

## (3) 指導観

### ①国際理解について（AG5プロジェクトとの関連）

日本の未来はグローバル化が進み大きな変化が予測されている。そんな中、文化や習慣を固定的なものとして捉えて絶対視したり、特定の民族に対する固定観念をもったりしないことが肝要である。多様な文化を尊重する態度を身に付け、「多様性」を受け入れることが、新しい時代を切り拓いていく人材になるための大切な考え方となる。本校は学校教育目標「豊かな心を持ち 自ら学び鍛える たくましい児童生徒の育成」の具現化のために、数年間の中期目標として「多様性を理解し、自他を尊重しながら切磋琢磨する児童生徒の育成」を設定している。児童生徒が中国や青島での生活や学習を通して、世界には多文化・多言語・多様な価値観があることについて理解すること、日本の習慣・文化・伝統との比較、検討することなどを通して、物事を多面的に複眼的に捉えることができることを目標に、教職員一同日々の教育活動に励んでいる。また、AG5拠点校としてバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のための実践研究に取り組んでいることから、よりその視点をもった児童生徒を育てやすい環境にあると言える。

「多様性」を理解し、自他を尊重できる児童生徒を育てるためには、バイカルチュラルの視点を取り入れた授業を多く行うことが大切であると考えている。本校における高度グローバル人材育成の礎となるように、本時はバイカルチュラルの視点を取り入れた実験的試みとして展開したい。

### ②目標にせまるための手立て（授業のユニバーサルデザイン化との関連）

現在、授業のユニバーサルデザイン化に取り組む研究が盛んに行われている。学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、すべての子どもが楽しく教科特有の見方・考え方を働かせながら問題解決できるように、工夫・配慮された通常学級における手立てとして広く実施されている。

授業内容の理解に難しさを感じているという点では、多文化家庭の児童生徒も同じではないかと考える。授業の「視覚化」「展開の構造化」「焦点化」を図るために、今回の授業では実際の写真や動画を取り入れる「視覚化」、地形や気候について日本と中国の特色の比較を単元全体で繰り返して明確化する「展開の構造化」、授業の中で何が本時のねらいや話題となっているかをわかりやすくするため、発問を精選し生徒が見通しをもって学習できるようにする「焦点化」の3つを大切にして授業をつくりあげる。

### ③本单元について

本単元の「世界から見た日本の自然環境」は、世界的な視野から日本の地形や気候の特色を理解させるとともに、自然環境と防災への取り組みを取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させるという日本の国土について学習する単元である。ここで言う「国土」とは、山地、平野、海岸などの自然物からなる土地それ自体だけを指すのではなく、そこに居住し生活する人々及び社会の実態や、人間の土地への対応の仕方を含めたものである。そのため、地形や気候の学習では小学部での国土についての学習や中学部の世界のさまざまな地域に関する既習事項を本時の学習と結びつけることが効果的だと考えている。ただ地形や気候に関する用語を取り上げて理解するだけではなく、今までの既習事項と照らし合わせて学習を行う。特に、世界のさまざまな地域で学習した国土の様子やそこに居住し生活する人々及び社会の実態は、2学期に学んだばかりである。日本の国土との比較対象として学習効果を発揮するので、積極的に授業の内容に取り入れたい。

### ④本校研究副主題「深い学びを目指した授業の創造」に向けて

社会科の学習では「社会に対する関心をもって主体的に課題をとらえ、適切に情報を収集して活用し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現するとともに、他者とのかかわりの中で思考を深め、公正に判断できる生徒を育てること」が「主体的・対話的で深い学び」を実現することにつながると考える。

本校では「仲間との意見交換や調べた資料の考察を通して、さらに追究したい課題を創り上げ、多様な手段で表現している」姿が具体的な深い学びを実現しているものと考えている。そこで、学習の過程ごとの具体的な生徒の姿を以下のように整理し、本時では、下線を引いた部分に注目して実践を行う。

学習の過程	各学習の過程における具体的な「生徒の姿」	「生徒の姿」を支える能力
課題を見いだす	社会に関心を持ち、主体的に課題を見いだそうとしている。	社会への関心 課題発見力
<u>情報の収集・加工と読み取り</u>	<u>適切に情報を収集、加工したり、正確に資料を読み取ったりしている。</u>	情報を収集する技能 情報を活用する技能
<u>考 察</u>	<u>事象を多面的・多角的に考察している。</u>	<u>多面的・多角的な思考力</u>
表現・発信	考察した過程や結果を適切にまとめたり、説明したりしている。	表現力 論理的な思考力
意見交換・討論	他者と適切に意見交換したり、討論したりして、思考を深めている。	コミュニケーション能力 批判的な思考力 コラボレーション能力
判断（実践へ）	多面的・多角的に考察した結果を基に、公正な判断に努めている。	判断力、意思決定力 公正に判断しようとする態度

### 3. 単元の目標

- (1) 四季の変化に地域差があるなど、日本の地形や気候の地域的特色に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。 **【社会的事象への関心・意欲・態度】**
- (2) 自然環境の特色が人々の生活に大きな影響を与えていることについて多面的・多角的に考察して説明している。 **【社会的な思考・判断・表現】**

(3) 地球儀、地図（一般図や主題図）、統計資料などから、日本の地形の特色や気候区の分布を読み取ったり、白地図や雨温図などにまとめたりしている。 【資料活用の技能】

(4) 世界と日本の自然環境を比較し、地形、気候、自然災害の観点からどのような特色があるのか理解している。 【社会的事象についての知識・理解】

4. 単元計画と評価規準

時	ねらい・学習活動等	評価の観点				○◇□☆ 評価規準
		関	思	技	知	
1	<p>【ねらい】世界の山や火山の分布を調べて特色を知り、その結果として日本に及ぼしている影響を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の地形は大きく分けて山脈の連なる造山帯と平原から成り立っていて、日本は環太平洋造山帯に属することを地図などから読み取る。</li> <li>造山帯にある日本は、自然災害の危険性があるとともに恩恵を受けている面があることについて考察する。</li> </ul>		◇	□		<p>□地震の震源と火山の分布図を読み取る作業を通して、世界の地形の大まかな特徴を読み取っている。</p> <p>◇世界には地震や火山が多くて不安定な地域と、それらがなく安定した地域があることを知り、それぞれのメリット・デメリットを考察している。</p>
	<p>【ねらい】日本の山地や海岸、周りの海には、どのような特色があるのか調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の国土における「山地・丘陵地」の占める割合や、山脈・山地・火山の分布などを理解する。</li> <li>日本の周りは、どのような海岸で囲まれているかを景観写真や海底地形の断面図などの資料から読み取る。</li> </ul>			□	☆	<p>☆日本全体の地図を幅広く見渡して大まかな特徴を読み取ることにより、山脈・山地・火山の分布の様子を大観して理解している。</p> <p>□リアス海岸と砂浜海岸の景観写真を比較したり、日本周辺の海底地形の断面図を読み取ったりする活動を通して気づいた点を指摘している。</p>
3 本時	<p>【ねらい】日本の川や平野には、<b>世界と比べて</b>どのような特色があるのか調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>景観写真や統計資料を参考に日本の河川と中国の河川、世界一の河川を比較して、それぞれの共通点や相違点を見出す。</li> <li>川と平地の関連に着目し、平地には平野や盆地など多様な地形が見られることをつかむとともに、地形と土地利用の関連について理解する。</li> </ul>		◇		☆	<p>◇世界と日本の川をグラフや景観写真などを用いて比較し、それぞれの位置や形状の特色を考察している。</p> <p>☆平地の種類やでき方、土地利用の様子について、地形図や景観写真の読み取りから理解している。</p>
4	<p>【ねらい】地形図の種類や縮尺、方位、等高線、地図記号の基本的な読み取り方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺、方位、等高線、地図記号などの土地利用の基本的な読み取り方を活用して身近な地域の地形図の地形の特色や土地利用を読み取る作業を行う。</li> </ul>		◇			<p>◇学んだ地形図の基本的な読み取り方を活用して身近な地域の地形図の地形の特色や土地利用について説明することができる。</p>

5	<p>【ねらい】日本の気候は、<b>世界と比べて</b>どのような特色が見られるのか調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温帯の三つの気候区の分布や雨温図、景観写真の比較を通して、共通点と相違点と読み取る。</li> <li>・雨温図や分布図等を読み取ることで、日本海側と太平洋側で降水量の分布に大きな差があることを理解する。</li> </ul>	○		☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ温帯でも地域によって違いがあることに興味を持ち、意欲的に学習している。</li> <li>☆日本の気候区分について、雨温図や分布図を基に日本の気候の大まかな特徴を理解している。</li> </ul>
	<p>【ねらい】日本で発生する自然災害は、地形や気候とどのように関係しているのか追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気象災害にはどのようなものがあり、それぞれどのような被害が想定されるかを知り、地形や気候と関連付けて説明する。</li> <li>・災害に対する備えとして「自助」「公助」「共助」の三つの観点から何ができるかを調べて発表する。</li> </ul>	○	◇		<ul style="list-style-type: none"> <li>◇日本に見られる様々な自然災害を、今まで既習した日本の自然環境の特色と関連づけて考察している。</li> <li>○防災への具体的な取り組みを意欲的に調べている。その際、災害時の防災マップの活用について適切に触れている。</li> </ul>

5. 本時の学習 (3/6)

(1) 目標

- ・景観写真や統計資料を参考に、日本と中国、世界一の河川の比較を通して日本の川の特徴を考察する。  
【思考・判断・表現】
- ・川と平地の関連に着目し、平地には平野や盆地など多様な地形が見られることをつかむとともに、地形と土地利用の関連について理解する。  
【知識・理解】

(2) 展開

	○主な学習活動・学習内容	・教師の支援と指導上の留意点 ◎評価	資料
活動の開始 10	<p>○川と平野について二つの写真を比べてどちらが日本の写真かをクイズする。 全体</p> <p>〈学習課題〉日本の川や平野には、世界に比べてどのような特色があるのか。</p> <p>○学習課題を知り、答えの予想を立てる。 個人</p>	<p>・世界の川と平野については、世界の諸地域での既習事項にかかわる写真からスタートして想起させる。その際、小学部6年生の修学旅行に行った時の黄河の写真を入れて興味・関心を高めさせる。</p> <p>↓</p> <p>・このクイズを通して漠然と頭に浮かんだ内容や小学校の既習事項として学んだ地理的特色を、まずは言葉としてまとめさせる。</p>	<p>プレゼンテーションソフト『どちらが日本?』</p> <p>ワークシート</p>

<p>活動の展開</p> <p>① 2 0</p>	<p>〈発問〉中国などの世界の川を比べてみて、日本の川の特徴を考えよう。</p> <p>○グラフと景観写真などを参考にしてながら、日本の川と中国を含めた世界の川を比べて特徴をまとめる。 全体 ⇒ 個人</p> <p>○それぞれが記述したことを発表し、他の人の発表から気付いた内容をメモする。 小集団</p>	<p>・生徒が書いた内容については、他の模範となる回答には線を引く。</p> <p>◎世界と日本の川をグラフや景観写真、主題図などを用いて比較し、それぞれの位置や形状の特徴を考察している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>・教師は間に入り、発表がスムーズにいくように助言しながら回る。</p> <p>・面積の大きい中国とブラジルの河川の特徴が似ていることに注目させる。</p>	<p>河川の景観写真 グラフ 『世界の川と日本の川』</p> <p>ワークシート</p>
<p>活動の展開</p> <p>② 1 5</p>	<p>〈発問〉川的作用によって日本にはどのような地形が形成されるのか。</p> <p>○河川の浸食・運搬作業によってさまざまな地形がつくられることを理解する。 個人 ⇒ 全体</p> <p>○学習課題に対する答えを記述する。その後、数人の生徒に発表させる。 個人 ⇒ 全体</p>	<p>◎平地の種類やでき方、土地利用の様子について、地形図や景観写真の読み取りから理解している。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>・扇状地、三角州のでき方や土地利用のされ方については複雑な内容なので詳しく説明する。</p> <p>・日本の河川が世界の河川と比べて短く急流となっていることに注目し、その河川的作用が日本の平野の面積を小規模なものにしていることに気付かせる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート フランスとの比較資料</p>
<p>まとめ</p> <p>5</p>	<p>○評価コーナーに本時の意見や感想を書く。次時の授業についての確認をする。</p>	<p>・分かったこと、気づいたことを具体的に記述させるようにする。</p>	<p>評価コーナー</p>

## 6. 板書計画

<p>日本の川や平野には、世界に比べてどのような特徴があるのか。</p>			
<p>信濃川の 写真</p>	<p>黄河の 写真</p>	<p>アマゾン川 の写真</p>	<p>扇状地 …水はけがよいので果樹園に利用されることが多い</p> <p>三角州 …水がしみこみにくいので水田や住宅地に利用</p>
<p>&lt;特徴&gt; ↓ここは、生徒の発表中に出てきたものを簡潔にまとめる↓ 例・川がまっすぐ ・河口からの距離 短い ・流域面積 小さい</p>	<p>&lt;特徴&gt; ・川の色が黄色 ・河口からの距離 長い ・流域面積 大きい</p>	<p>&lt;特徴&gt; ・川が蛇行している ・河口からの距離 長い ・流域面積 大きい</p>	<p>日本の地形は川の働きが大きく関係している。 ⇒土砂の運搬、浸食作用</p>

### 3・日本の川と平地(P146・147)

**導入Q** 「川と平野の写真、どちらが日本の写真でしょうか？」○×クイズ

第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問	合計
						/ 6

↓

学習 課題	
----------	--

・最初に先ほどのクイズを通して気づいたことや小学校の授業で学んだことや自分が知っていることから、上記の課題について答えの予想を書いてみましょう。

--	--

～課題を解くために、知識をつかむ～

#### 作業1 日本の河川と世界の河川 **基本**

○教科書 P146・147、資料集 P109、黒板の写真資料、電子黒板の資料などを参考にしてまとめてみよう。

また、一番下の ( ) に「似ている」「似ていない」の言葉を選んで入れてみよう。

日本の川（信濃川）の特徴	中国の川（黄河）の特徴	世界一長いアマゾン川の特徴
<様々な資料から分かったこと>	<様々な資料から分かったこと>	<様々な資料から分かったこと>
<他の人の発表から分かったこと>	<他の人の発表から分かったこと>	<他の人の発表から分かったこと>
中国の川と ( ) アマゾン川と ( )	日本の川と ( ) アマゾン川と ( )	日本の川と ( ) 中国の川と ( )

作業2 さまざまな地形が見られる平地 基本

Q・「二つとも似たような土地の写真だけれども、どうしてこのような形になるのだろうか？」



地形の名前 ( )

地形の名前 ( )

・上の資料から導入Qの答えになるものをまとめなさい。

自分の意見

周りの人の意見

課題

日本の川や平野には、世界に比べてどのような特色があるのか。

①新しく得られた知識を基に、さらに考えたことをまとめよう。

②クラスの人々の意見のメモ

<今日のまとめ>

- ①今日の授業を主体的に取り組めたか。  
( A ・ B ・ C )
- ②世界と比べて日本の川や平野の特色を説明  
することができる。( A ・ B ・ C )

本日の感想・意見・疑問点

(今日の単元スタンプ)

